会　議　録

【事業番号８　学生のまち金沢推進費】

１　会議名　　平成 29 年度第３回市民行政評価委員会
２　日　時　　平成 29 年 10 月 11 日（水）午後２時 50 分～３時 20 分
３　場　所　　議会３委員会室
４　出席者
（１）市民行政評価委員会委員
　　岡田委員長、林委員、山崎委員、寺田委員、大家委員
　　喜成委員、西山委員、藤田委員、安田委員
（２）事業担当課（市民協働推進課）
　　南課長　橋爪係長
（３）事　務　局（行政経営課）
　　津田課長、松本課長補佐、島崎係長、古谷主査

５　審議内容
評 価 委 員　：　参加学生数や金沢の魅力発信、学生の発想や力の活用、地域との交流促進など、実施する事業をどのような基準で選択しているか。（事前質問）
事業担当課　：　基本的な考え方として、学生のまち推進条例（略称）の目的である、「本市の個性と魅力を磨き高めるまちづくり」の推進が事業の基準となっている。
・「OPEN CITY IN KANAZAWA」「まちなか学生まつり」
　・・・金沢まちづくり学生会議事業であり、まちなかの賑わいの創出を目的とした事業
・「歴史的空間再編コンペティション 2016」
　・・・歴史的空間再編コンペ事業であり、歴史的・近代的建築の融合が見られる金沢の魅力発信を目的とした事業
・「学生等雪かきボランティア」
　・・・学生等雪かきボランティア事業であり、学生と地域との交流促進を目的とした事業
・「学生のまち金沢」魅力発信交流プロジェクト
　・・・かなざわ娘等のプロジェクトであり、学生の発想の活用した事業

評 価 委 員　　実施事業は誰が決定しているのか。学生のみで決めているのか、市の担当課とヒアリングで決めているのか。また、学生会議の構成を教えて欲しい。

事業担当課　：　学生と市が協議して決定している。学生会議の構成は49名であり、主な内訳は金沢大学８名、金沢工業大学16名、金沢学院大学12名、星陵大学、金城大学などであり、県内出身者が13名、残りが県外出身者である。

評 価 委 員　：　構成をみると、金沢市内に設置する大学に限定されていないが、大学コンソーシアム石川との違いは何か。

事業担当課　：　大学コンソーシアム石川は県内全ての高等教育機関が連携する組織であり、活動地域が金沢に限定されていない。本事業は「学生のまち推進条例」に基づく事業で、まちの賑わい創出や学生と市民との交流を継承発展させていくためのものであり、お互いにすみ分けをしていると理解している。

評 価 委 員　：　コンソーシアム石川は組織として充実している。学生のまちづくり学生会議について、コンソーシアム石川が受け皿になれないか。様々な機関が同様の事業を行うのは無駄に感じる。窓口を一元化すれば事業の振り分けができる。

事業担当課　：　市の事業は条例に基づくものであるため、活動範囲は限定されるが、連携できる部分があるかどうか、今後検討したい。

評 価 委 員　：　二次評価の「これまでの事業成果を検証」とあるが、どういうことを検証するのか。

事　務　局　：　この事業は、学生相互・学生と市民との交流を促進するものである。学生相互の交流はある程度充実しているが、学生と市民の交流について、具体的にどういう効果があったか、検証して欲しいという趣旨である。

評 価 委 員　：　参加者数の最終目標はあるのか。

事業担当課　：　具体的に数値化することは難しいが、今後検討していく。

評 価 委 員　：　様々な大学がある中で、どのようにして学生会議のメンバーを集めているのか。

事業担当課　：　大学事務局や学生のまち推進会議での告知、大学内での口コミで集まっている。大学間にメンバーの偏りがあるのは否めない。告知の仕方は模索しているところであるが、なるべく均等に参加してもらえるよう目指していきたい。

評 価 委 員　：　企画調整課も大学との連携事業を行っているが、市民協働推進課との役割分担はどのようなものか。また、予算配分は、学生のまち推進会議が決めているのか。あわせて、まちなか語らいキャンパスの経費の内訳を教えてほしい。

事業担当課　：　企画調整課は大学間連携の視点で事業を行っており、市民協働推進課は大学に限らず専門学校などの高等教育機関を対象に、まちなかに賑わいを創出する視点で学生をまちなかに呼び込む事業を行っている。予算配分については、それぞれ事業ごとに委託費を決定している。語らいキャンパスの委託費の内訳は、飲食店の借上料と告知費用である。

評 価 委 員　：　市民と学生の協働事業は市民協働推進課で進めていけば良いと思う。歴史的空間再編コンペティション事業だが、市民協働推進課として次の施策にどう繋がるのか。

事業担当課　：　来年度に開設予定の市民協働サポートセンターでは、更なる市民団体と学生の交流を図っていきたいと思っている。
歴史的再編コンペティションについて、建築文化は金沢の魅力のひとつであり、文化発信のためにも継続していきたいと考えている。